

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 専任教員の61歳以上の割合が35%を超えないようにする。	→61歳以上の教員比率。	A	A	A		
2. 男女共同参画社会の実現にむけて積極的に女性教員を採用する。	→女性専任教員の比率。	C	C	C		
3. 教員の資質向上のため、教員の教育研究活動等の評価規準を2013年度までに作成する。	→作成された評価基準。	B	B	B		
4. 任期制教員導入等教員枠の柔軟な運用により教育・研究を活性化する。	→任期制教員の導入枠数。	C	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年4月現在、61歳以上の教員の割合は20.5%であり、目標は達成している。
目標2	平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、女性研究者支援のための制度の充実や意識改革のための活動を行っている。また、教員の公募採用に際して男女共同参画を推進していることを明記し、女性研究者の応募を促しているが、実質的な女性教員の増加にはつながっておらず、専任の女性教員1名が2012年3月に退職したため、専任教員に占める女性教員の割合は7%に低下した。
☆ 目標3	教員の昇任に関する評価基準は定められている。年度ごとの活動については、2010年度より研究室費成果報告書の提出を義務付け、提出された報告書をまとめて冊子として教員に配布している。これにより、Webに公表されている業績報告よりも広い視点から適切な教育・研究が実施されているか検証しているが、具体的な評価基準の策定にはまだ至っていない。
目標4	大学院で2012年9月より「英語のみによる修士コース」を開設するのにもない、2012年4月に2名の任期制助教を採用した。これらの教員は、英語で大学院の授業を行って大学院教育の国際化を推進するとともに、特定の研究室に所属し理工学研究科の研究の活性化にも寄与する。
備考	